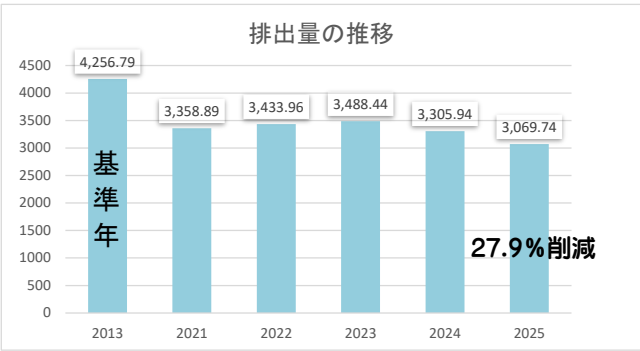


2025年度事務事業 CO₂排出量の削減状況



2025年1月策定 第二次計画目標
2013年比 2030年 70.6%削減目標

エネルギー使用量の推移に関する総括（2013年度比・2025年度）

※LAPSS入力データより

	2013	2023	2024	2025	増減率 2013年比 (※2013年データがない項目については前年比)	増減理由
電力 kwh	4,292,305	4,734,286	4,829,173	4,212,804	-1.9%	2025年4月から本庁舎CO2フリー電力へ切替
CO2フリー電力 kwh				374,761		2025年4月から本庁舎切替
都市ガス m ³	295,469	434,123	475,775	477,995	61.8%	灯油、重油から都市ガスへの切り替え
灯油 ℓ	146,040	40,815	40,950	31,783	-78.2%	灯油、重油から都市ガスへの切り替え
重油 ℓ	28,556	0	42,200	600	-97.9%	過年度種苗センター報告漏れ
木質ペレット kg		131,632	117,600	123,900	5.4%	北月山荘
LPGガス kg	1,734	457	1,514	991	-42.8%	使用施設の減少。
ガソリン ℓ	45,321	36,604	33,763	33,430	-26.2%	会議、研修のWeb参加増加等による減少
軽油 ℓ	190,287	56,250	66,335	65,144	-65.8%	除雪車の燃料が業者負担となった。軽油車両の減少
天然ガス車走行 km	1,883				-100.0%	
ガソリン車走行 km	509,135	326,361	325,934	276,186	-45.8%	会議、研修のWeb参加増加等による減少
ハイブリッド車走行 km		36,544	36,386	37,817	3.9%	車両更新時はハイブリッド車、PHEV、EV等
軽油車走行 km	398,536	317,740	275,609	274,968	-31.0%	除雪車の燃料が業者負担となった。軽油車両の減少
水道 m ³		42,374	44,640	46,266	3.6%	
下水道 m ³		44,804	47,651	48,079	0.9%	
再生紙 枚		2,600,500	2,823,245	2,675,500	-5.2%	
紙類回収量 kg		5,970	5,190	5,350	3.1%	

2013年度と比較して2025年度のエネルギー使用量は、電力および都市ガスの使用量が増加する一方で、化石燃料系の燃料（灯油・軽油・ガソリン）については大幅に減少するなど、エネルギー構成の転換がさらに進展した。

2025年4月から本庁舎がCO₂フリー電力へ切り替わったことにより、電力使用量は2013年度比でわずかに減少した。今後も電力使用に伴う温室効果ガス排出量は実質ゼロ化を推進する。また、都市ガスは2013年度比で約62%増加しており、これは重油・灯油から都市ガスへの燃料転換が継続して進んだ結果である。

一方で、灯油は約78%、軽油は約66%、ガソリンも約26%と、いずれも大幅な減少が続いており、燃料の低炭素化、車両の省エネ化、会議・研修のオンライン化、除雪車燃料の業者負担化などが寄与している。

走行距離ベースでも、ガソリン車・軽油車ともに減少傾向が続き、車両更新時にはハイブリッド車・PHEV・EV等の導入が進んでいる。

また、LPG使用量も減少しており、全体として化石燃料依存の低下と電気・都市ガスへの移行傾向がより明確に表れた年度となった。

一方で、水道・下水道の使用量、再生紙使用量は増加傾向が続いており、業務量の増加や環境配慮行動の一部後退が見られる。古紙リサイクルの徹底や、庁内での環境配慮行動の再確認が必要である。

エネルギー別CO₂排出量の推移 (t-CO₂)

大項目名	2013	2023	2024	2025	増減率	今後の対応
電気	2,575.4	2,258.3	1,859.0	1,700.9	-34.0%	使用量は増加しているが、東北電力の排出係数が2013年0.6kg/CO ₂ -Kwhから0.4に低下したため減少。本庁舎CO ₂ フリー電力への切替えによる効果。
都市ガス	616.8	890.0	969.8	979.9	58.9%	高効率空調への更新
軽油	491.9	145.4	168.3	138.9	-71.8%	軽油からガソリン車、ハイブリッド車への切替え
重油	85.6		114.3	79.9	-6.6%	種苗センター R6から報告
灯油	363.6	101.6	101.9	80.4	-77.9%	灯油、重油から都市ガスへの切り替え
ガソリン	105.2	85.0	79.8	77.7	-26.2%	公用車更新時、ハイブリッド、PHV、EVへの切替え
自動車の走行	7.8	5.2	4.4	3.4	-56.6%	会議、研修のWeb参加増加等による削減
LPG	10.6	3.1	4.5	3.0	-71.5%	
その他	0.0		3.8	4.0		
排出量合計	4,256.8	3,488.4	3,305.9	3,067.9	-27.9%	再エネ電力への切替えにより、大幅な削減を目指す。

2013年度と比較して2025年度の総CO₂排出量は27.9%削減となり、温室効果ガス排出削減がさらに進展した。特に電力部門の削減が顕著であり、排出量は34.0%減少した。

これは、東北電力の排出係数が2013年度の0.6kg-CO₂/kWhから0.4kg-CO₂/kWhへと低下したことに加え、2025年4月から本庁舎がCO₂フリー電力へ切り替わったことが大きく寄与している。電力使用量自体はほぼ横ばいで推移しているが、電源構成の低炭素化と再エネ電力導入により、排出量は確実に減少している。

都市ガスは、灯油・重油からの燃料転換が継続した結果として増加しており、2013年度比で約59%増となった。高効率空調への更新は進んでいるものの、都市ガス使用量の増加が排出量増加につながっており、今後は適正使用や更なる効率化が課題となる。

ガソリン・軽油・灯油などの化石燃料は、いずれも使用量の減少に伴い排出量が大幅に減少した。公用車更新時のハイブリッド車・PHV・EVへの切替え、会議・研修のWeb参加増加、除雪車燃料の業者負担化などが効果を上げている。自動車走行に伴う排出量も減少しており、輸送部門の効率化が進展している。

重油については、種苗センターの報告が過年度に漏れていたため、2024年度以降に新たに集計が開始されたものであり、2025年度は79.9t-CO₂となっている。

総じて、電力部門の排出係数低下とCO₂フリー電力導入が排出削減を強力に押し上げており、総排出量の約半分を占める電力部門の更なる削減が、今後の目標達成に向けた最重要ポイントとなる。都市ガスの適正化、車両・設備の高効率化、再エネ電力の導入拡大を継続的に進めることが求められる。

CO₂排出量削減率上位

施設名	2013	2023	2024	2025	基準年比	削減理由
都市下水道施設	27.57	14.05	10.26	6.31	-77.1%	稼働率を下げた。
月の沢温泉北月山荘 (北月山ロッジ・ケビン・キャンプ場を含)	239.24	62.93	56.57	61.02	-74.5%	木質ペレット、太陽光導入。営業時間短縮。
余目第四まちづくりセンター(和合館)	41.75	16.08	15.36	15.12	-63.8%	LEDに切り替え。
屋内多目的運動場、第二多目的運動場(運動場除)	105.25	66.75	50.42	43.83	-58.4%	LEDに切り替え。
立谷沢まちづくりセンター	21.76	10.15	7.98	9.10	-58.2%	冷暖房を灯油からLPガスに、照明をLEDに切り替え。
消防車両(ガソリン)	6.24	2.05	2.84	2.73	-56.3%	操法大会がなくなったため。
笠山グラウンド	8.04	6.16	4.23	3.75	-53.3%	LEDに切り替え。
農業集落排水施設	563.83	332.20	263.41	273.11	-51.6%	環境負荷の低いものに更新している。

※休館期間があった施設等は除外しています。

R7.4月 CO2フリー電力に切り替え

本庁舎	177.1	295.2	261.1	117.1	-33.9%	対前年比-55.1%
-----	-------	-------	-------	-------	--------	------------

CO₂排出量増加率ワースト

施設名	2013	2023	2024	2025	基準年比	今後の対応
町民ふれあい広場	0.19	2.82	2.38	2.52	1250.1%	
農林漁業体験実習館	0.28	0.07	0.26	2.08	565.0%	R8年4月再エネ電力への切り替え対応済み。
学校給食共同調理場	53.00	256.33	248.57	265.49	400.9%	R8年4月再エネ電力への切り替え対応済み。

